



前期中間考査に向けて

来週から中間考査です。各教科で知識の定着度や思考力・表現力を見る問題が出題されます。そして定期考査への準備はそのまま共通テスト対策への第一歩です。全生徒が「新しい自分になる」と決意し、準備しましょう。また、テスト勉強計画を立てるにあたり、以下の点に注意しましょう。

①学習量を絞り込む。

本当に必要な、実行できるかを考える。

②具体的な計画を立てる。

例：「いつ、どの教材を何ページまで」

③進捗状況を管理する。

勉強した事柄を書き出して「見える化」する。

④計画を調整する。

実行してみて、量や時間を微調整する。

上記の他にも、「スキマ時間」を活用する、勉強前ルーティンを決める、身の回りの整理整頓やスマホの管理などによって集中できる環境を作るなど、各自に合ったテスト対策に取り組んでください。

進路情報

先日、進路情報関係の資料を配りました。

①『逆引き大学辞典』（1・2年生）

PART 1では、主な学科名や取得できる資格、就職先の例が示されています。PART 2では、学問系統別の具体的な「学科名」が示されます。自分の希望と関係のある学科名を確認しましょう。PART 3では、PART 2で確認した学科を設置している「大学名」を探すことができます。

「工学科」「先進工学科」「材料工学科」等、多くの学科名を知っていると選択肢が増えます。

②『マナビジョンブック保護者版』（3年生）

入試の仕組みやスケジュール、大学にかかる費用等、今年実際に直面する問題について知ることができます。確実に保護者と共有しましょう。

③『進路の手引き』（全学年）

鹿児島中央高校進路指導部が発行しています。年間の学習スケジュールや学習方法、進路実績等を確認できます。他にも、中央高校独自資料の、模擬試験の成績と大学入試の相関関係が分かる表や、先輩方の合格体験記等、他では手に入らないリアルな情報が詰まっています。

有益な進路情報を今後も届けていきます。届いた資料をどんどん活用して、自分の進路実現に役立てましょう。

定期考査と大学入試

左記の記事について補足します。中間考査は、単に何度かある中の考査の一つではありません。定期考査の結果は、以下に示す「評定」につながっていきます。

1 評定とは

学年末には、定期考査の得点と日常の取り組みを総合して、科目ごとの5段階評価が行われます。1学年の数学を例にすると、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」の3科目にそれぞれ評定がつけます。

2 大学入試における評定平均値

教科・科目		第1学年	第2学年	第3学年
数	数 学 Ⅰ	4		
	数 学 Ⅱ	4	5	
	数 学 Ⅲ		5	5
学	数 学 A	5	4	
	数 学 B		4	5

例 数学の評定平均値

$$(4+4+5+5+5+5+4+4+5+5) \div 9 = 4.6$$

(1学年) (2学年) (3学年)

学校推薦型選抜では、3年間の全科目の評定平均値が条件となる場合があります。国公立大学では、4.3以上を求められることもあります。そしてこの数字は「出願OK」の条件であり、合格ラインではありません。数学のように、複数の評定が付く教科は克服の必要があります。また、家庭基礎や保健など、1・2年次にしかない科目は、その学年で高評価を得なければなりません。定期考査の成績が大学入試にもつながっていくのです。

なお、学校推薦型選抜や総合型選抜（以前はAO入試という名称）の場合、学力の安定はもちろん、具体的な進路設計の説明や、学校内外の活動に積極的に参加した実績も求められます。「志望理由書」や「活動報告書」の提出が求められたときに必要になるので、それぞれの活動で「参加証明書」等が発行される場合は大切に保管しておきましょう。各種検定の合格証明書やスコアも同様です。日頃から記録を残したり、書類を保管したりする習慣を身に付けておきましょう。

高校生活のあらゆる部分が「大学入試」につながっているのです。今度の中間考査もその一部であることを意識して、しっかり準備しましょう。

大学入学共通テストまであと229日。頑張り3年生！

掌上の悪魔

真新しい制服に身をまとった320名の新入生が本校の正門をくぐってから早くも2か月が経とうとしています。みなさんの授業態度を見ても、C-PASSや作文「鹿児島中央高校に入学して」を読んでも、一人ひとりが強い思いを胸に入学してきて前向きに頑張ろうとしていることは想像に難くありません。今の気持ちを常に持ち続け充実した高校生活を送ってほしいと思います。

さて、私は、スマホの使い方によってこれからの高校生活が決まると思っています。高校生活におけるスマホの問題点は大きく2つあります。勉強しなくなることと人間関係のトラブルです。

私には幼稚園に通う子どもがいます。昨年、「子どもに何歳からスマホを持たせるべき？」と中央生に尋ねたところ「勉強しなくなるから高校生まではいけない」と言う意見が多く聞かれました。ここには「スマホの使い過ぎはよくないとはわかってはいるけれど結局自分がスマホに使われている。だったらむしろスマホなんかこの世になればよかった」という思いが表れているような気がします。今はほとんどの高校生がスマホを持っていますし、スマホに時間を奪われていく生徒を私はたくさん見てきました。正直、私は自分が高校生の時にスマホがなくて良かったなと思うこともあります。天使のような顔で近づく、みなさんにとって魅力的なスマホ……。

勉強しているときにラインが来たから返事しないと心配だとか、終始友達とラインでつながっていなければ不安だというのは偽りの「和」です。誰かの顔色を気にして意見を合わせたりどこに行くにも仲間とつるんだりするのは「和する」と似て非なるものです。「和する」と「つるむ」は違います。『論語』にも「子曰わく 君子は和して同ぜず 小人は同じて和せず。(先生が言われた。君子は人と和らぎ協調するが、やたらとつるんだりしない。反対に小人はよくつるむが協調性はない。)」と書かれています。スマホとの向き合い方をしっかりと考え、貴重な時間をスマホでムダにすることのないようにしましょう。

そして毎年のようにスマホによる人間関係トラブルも発生しています。スマホの適切な使用法は先日の「スマホ・携帯安全教室」で学んだとおりです。みんな何が悪いのか、どうすればよいのか分かっているはずですが、それなのになぜトラブルはなくなるのでしょうか。

「届く言葉」と「届かない言葉」がある。どれほど非論理的であっても、聞き取りにくくても、知らない言葉がたくさん出てきても、「届く言葉」は届く。どの言葉も語義明瞭で、文法的にも正しくつづられていて、美しい韻律に乗せて語られても、「届かない言葉」は届かない。どこが違うのか。

違いは一つだけだ。「届く言葉」には発信者の「届けたい」という切迫がある。できるだけ多くの人に、できるだけ正確に、自分が言いたいこのことを伝えたい。その必死さが言葉を駆動し、思いがけない射程まで言葉を届かせるのである。

内田樹『届く言葉』より

現代文の授業で学んだ一節です。あるクラスで、「今一番困っていること」というテーマの下、『届く言葉』で1分間スピーチをしてもらいました。授業で学んだことを生かして迫力あるスピーチをしている姿を見ると、やはりラインやメールではこの迫力は生まれないだろうと感じました。面と向き合い誠意あるコミュニケーションを取ればトラブルも減らせることができると思いませんか??自分たちのクラスは絶対にいじめを許さないと全員が思っている!!

己れの欲せざる所 人に施すこと勿かれ。(「自分がされたくないことは、人にもしないように。」)

昨年、緊急事態宣言で突然の休校を経験したみなさんの多くは、学校生活の方がどれほど楽しいか(大変なこともあるけれど)、どれほど勉強の効率が上がるか(大変なこともあるけれど)を知っているはずですが。

縁あって同じ学校・同じクラスになった仲間です。高校3年間を良い3年間にしてください。まだまだ始まったばかりです。頑張り59期生!

(#なんでも相談してね☆1年2組 副担任 坂元ちひろ)

「素直な心」

2年7組 副担任 茶園景子

皆さんは「素直な心」をもちえていますか？

私は今でも師について書道を学び、さまざまな経験をさせてもらっています。その中で特に感じることは「素直である」ということの大切さと、難しさです。人が成長するために大切なのは「素直な心」だと感じています。ある生徒の話を書き記しますが、何かを考えるきっかけになればと思います。

Mさんは高校入学当初から大学進学 of 明確な目標がありました。志望大学のAO入試(現在の「総合型選抜」)を受験するというので準備を始めていました。まず、自らテーマを設定し研究を開始。ここでいう研究は「書」に関する研究です。1年次から着々と準備を進めていきましたが、私は時々相談を受ける程度でした。3年になりいよいよ研究も大詰め、レポート用紙50枚を越える自己推薦書のまとめです。高校に入学してからの2年と数ヶ月。その間に取り組んだ作品、その制作過程。大学で学びたいと思っている書家の分析・考察など。のんきに構えていた私のところに大量のレポートを持参し「添削を…」となります。私も必死でレポートを読み、添削。Mさんと話をしながら確認をして返却。その1日～2日後にはまた添削に持ってくるという日々でした。何とか自己推薦書を完成させ、次は面接対策です。さらにAO入試が不合格だった場合を考えて推薦入試の準備も始めました。その間も本人は普通に学校生活を送り、課題をこなし、学校行事を楽しんでいました。その傍らでの受験対策でしたが、できることは全てやりきった。もし、不合格であっても納得のいく頑張りができたのではないかと感じていました。結果は・・・、無事合格。

Mさんは特別優秀で、特殊な能力があったわけではありません。日々の様子からは毎日が目一杯だったということも感じられました。そんな中、何度も何度も添削をされ、ダメ出しをされても、一度たりとも弱音を吐いたり言い訳をしたりすることはありませんでした。素直に話を聞き、自分で悩み考え次に進む。その姿勢はとても素晴らしく、私は教える立場でありながら頭の下がる思いでした。Mさんの本当の強さは「志望校に合格したい」という思いより「素直さ」にあったのだと思います。「素直に学ぶ」姿勢があったからこそ、勝ち取った合格だったような気がしています。

本当に素直になるということは難しいですね。人から注意をされるとイラッとしたり、不機嫌になったりすることがありませんか？でも、その瞬間には素直に聞き入れられなくても、後から冷静になって自分を振り返り、その注意や忠告を理解できたのなら、それも成長に繋がっていくのではないのでしょうか。

私もまだまだ素直になりきれません。反省することの方が多のですが、幾つになっても「素直な心」を忘れずに成長したいと思っています。

成長していく人の最強の武器。それは素直さ。(浜口隆則)

受験生に変身する覚悟はあるか？

3年7組 担任 坂上謙次

変身する覚悟はあるか——。高校野球の秋季九州大会で、長崎の離島にある大崎が初優勝した。3年前まで部員不足で廃部寸前だった野球部は、2018年春の清水央彦監督（49）の就任を機に生まれ変わった。1年半で県大会を制し、2年半で九州王者に。背景には選手、監督自身の意識改革があった。「西の果てから本気で日本一をめざすなら、2回くらい人間を変身させる必要があるんです。」清水監督に指導方針を尋ねると、真剣な表情でそう返ってきた。そして、冒頭の言葉を選手に投げかけているという。（朝日新聞デジタルより）

今年の春の全国高校野球選抜大会に初出場した長崎県立大崎高等学校のことを聞いたことがある人ものではないかと思います。高校野球においては、基本的に有望選手を集めることができる私立高校優位の状況がずっと続いており、公立高校が県大会を優勝し、地区大会も優勝することは非常に稀で、しかも大崎高校は長崎県西海市の大島という離島（実際は橋が架かっていますが）にある全校生徒115名（令和3年5月現在）の小規模な学校であったことから、大きなニュースとして取り上げられました。

大崎高校が勝てた要因は、監督を慕って選手が集まったり、練習環境が充実していたり、地域の方々が全面的に支援してくれたり等の外的要因が揃い、そこに「本気で日本一になる」という意識改革（内的要因）が伴った結果だと思っています。

これを皆さんにあてはめてみましょう。皆さんには鹿児島中央高校の優秀な先生方が揃っています。学習環境も朝課外から放課後課外まで集中して学習できる環境があり、同じ志を持った仲間が周りにいて良い刺激を与えてくれる環境にあります。さらに家族を筆頭に多くの人たちが皆さんの志望校合格のために協力をしてくれる、もしくはすでにしてきているはずです。

つまり、志望校合格に向けての外的要因は揃っているのです。あとは何が必要かわかりますよね？3年生に進級して2ヶ月経過しました。部活動も終わった人がいれば、終わりが近づいている人もいます。今の自分はどうですか？2年生までと変わらない生活を送っていませんか？やらなければならないことよりやりたいことを優先していませんか？それでもどうにかなると思っていませんか？共通テストまであと229日（5/31現在）です。あっという間にその日は訪れます。甘い考えでいると涙を流すことになりますよ。そういう姿を今までたくさん見てきました。皆さんにはそうなってほしくない。だから最後に改めて問います。

受験生に変身する覚悟はあるか？